

渡獨記

下

自開中
至開中
年正月
至正月
日

61

所有者

伊東忠太

東京市本郷区西片町一丁目八

(小森川)

一〇五〇

イギリスの領土(英領印度)



三月二十九日 (22)

朝 *Sandwich* に出る。大佐館より後者の原田の回
索を仕上げ、飯田より大使館まで来た。午。

午時より北山、飯田を仲介して *Sandwich* 氏に導かれて全
氏宅に赴き午食を饗く。氏宅は例より茶煙室の
二階にて相當な文脈あり。何れも信同中政と同様の
設備にて、荷屋も大きく造作を破滅せしが、風味は
此のハ是館よりよし、茶室は他より *the club* 式と
そっくり。女史より、*Sandwich* 氏の金庫金銀の量、金庫
は *the club* の *the club* 金庫より大なり、見れば二十金。この
金庫金庫は四層の金庫、*Sandwich* 氏が日本に在りし時
の恩顧状あり。氏宅の火を承けて昔を懐かれたら
予は紙は早妙、瓦石細、自筆の曲、おかしき二点を贈り
Sandwich 氏長官看書筆蹟、壁に此人は夢中なうて女同
士 *the club* と品評す。海軍艦や此のこころあり。

作館主とは *Sandwich* 氏、南に野郎 *the club* 氏。
殿の手帳に記したるこの辺が昔面あり。

朝朝の寒雨を脱し、*Sandwich* 邸を飾して北山、飯
田と共に *Friedrich* 邸を中心として日本館の店を
あそぶ。此の *the club* 女史の贈る *the club* 品が有力。
一二期の店ありて甘愉快の店あり。最後に
Potterman の店にて手帳のものを見つけ
て之を贈り、是より御座る赴きて日本館を食ひ、先時
本宿の婦人の *Sandwich* 女史と云ふと云ふと訪ね
女史は *Hansel* 氏 *Hansel* の漢字を贈る。此の
を云う。女史を贈る。早より信達来る。幾つか
後より被服の寄達を納入せし。壁にくつて *the club*
見返へして書しむ。夜半迄が寝る所。

四月六日(水)

昨夜七時より十二時まで五時五分通しの睡眠はスツカリまいて仕舞ひ、朝は理髪して眠気覚めず。北山氏に話した所が奮然して *Insolent* と云ふ漢字は北山氏も少く語らずに *schuly* 文才も飛んだと申しあげた。

午食後北山氏と共に本屋ありき試し、二つ竹の書肆のなかにお伽餅の罐置ある処に物置せるを見たり、何れも中人臭い客のこ。而して如何なる古への精力を失くしたるかと云ふべくは、皆書一冊を要して置く。

夕刻省の歸り食事を終へて、昨夜の夢を再び現れて仕事する是とある。僅かに二三の雑事を終へ、各方面に書きて早速就寝、甘夢を結ぶ。

四月七日(木)

朝、果しがけなく *Springer* 氏、又奥米訪、送別の詩を述べられ、煙草を贈らる。予大に感謝し、臺で用意したる煎茶、煎餅、羊羹を贈る。又島中大に悦び、懇ろに別を告げて帰らる。 *Springer* 氏より贈る *Springer* の温厚の人格者として尊敬する人である。予は彼以外に、奥の風格高き人を見たることある。

Insolent と云ふ北山氏を面談の素願して文部省の国定保存部を訪れ、既に別館実行の有志等が同いたるが、掛長少しの當欲を得ず。要するに今省に統一せる国定保存法なく、各別、各々正に勝手仕事をして居るといふ。遂に統一せる法律を作るやうと云ふは、日本が現に動行して好成績を挙げたることを惜し、質問ありき答へんと云ふ中、彼れは同んて云せず、予大失望して歸主セシ。

今日漢堂迄飲み江戸元自衛隊の故陣まで見廻されたりといふ報に接し驚愕す。早速軍電を宛てたが、歸朝間が二この実績は又の毒の至りあり。夕刻省の歸り便車の各方面より帰朝延期の普通通知が飛達し趣は鈍く。

四月八日(金)

今日は葛飾橋への料理あり。午中新聞を相手が買集め、その他品々を不箱に詰め、お茶を書きおして大かき片付きたり。輕き午食を取り。午後二時過ぎる *Insolent* と赴く。三時より北山氏と教師の同答を立ち合ふあり。同野教師来訪す。北山氏と一茶を飲む。予は書より北山氏に注意に就て喧嘩を起すと、同野教師の *Insolent* と云ふに注意を起すと云ふ。以下漢堂に注意したるため、同茶の意外に温和な終る。結果北山氏は「キリスト教は日本の國體を削ぐる故布教の効ある」と云ふ。教師は「假令強硬者を出すても布教の勢い」と云ふ。終つて教師は「今後キリスト教攻撃の爲る講演は差し置かれらるべし」と云ふ。北山氏は「果敢に」と云へて分れたるは結構なりし。若し予の注意なく、予の立身會のありや否や或は喧嘩を起しやうと知れず。

四時半帰路に歸る。第五で夕食の積少懸、雑事を整理して夜更就寝。

夕方に五時大衆投票

予は葛飾早々秋田大工總會より *Hilar* の煙草を大衆投票の由、宜しく多量に贈られたるが、その煙草の煙を消すにやを問合せる處、係りの青山氏に秋田大工總會に置き、予は愛せざるは。予は葛飾氏に謝し、是行は、早速解決すべきは、館の由來、贈呈報、予は

四月投票

四月十日野に二回投票を行ふ。城田會の可成りあり。満二十一以上の若者も投票權を有す。此の投票にて *Fairbanks, Eric Voeley, Eric Fairbanks* と大書す。

即ち日本が此の日本國體に否やありと云ふ事なり。投票の結果は明白なり。一併 *Ja* と云ふ投票は、各地に於て同日投票を行ふ。野に二回合する可き同様のものあり。勿論一併 *Ja* と云ふ投票より成る。若し *Nein* と投票するは、是は直ちに投票する。國體と選挙と云ふは、是れは直ちに投票する。

旧式を尊重せられれば、と言明されたるより、
殆は蒸へきり、結局は予は毛雨日中の厚雲
を再検討して意見を述べんとむして大使館を
去り、夫より暫く伊勢館に赴き、是日見送れた
計を一失、甚だの損を被りし。

今日見たるは、西部アフリカの部にて *Hittite*,
Babylonia, *Assyria*, *Parthia*, *Sassan*
等なる面白く、其の最良なるは、*Assyria* (アッシリア)。

Assyria (Assyria) 750 B.C.
Assyria

Assyria *König Samas-nadad* 750 B.C.
1050 B.C. 2 柱 (Käpittel 高、柱、7m ほど)

Assyria *König Samas-nadad* 750 B.C. 高、柱、7m ほど
Käpittel 750 B.C. *Assyria* の柱は、
12 根ほど。

Parthia *Käpittel* 2 柱。A.D. 4 番、5 番
" *Räucheraltar* 2 柱。A.D. 4 番、5 番
宝庫の柱は、*Assyria* の柱より、

Palmyra の柱は、*Assyria* の柱より、
と聞けり。柱身は、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

Parthia の柱は、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

その外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

Parthia の柱は、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

Parthia の柱は、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

其の外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、
ある外、*Assyria* の柱より、

山氏は例の如く大使館建築の意欲が盛んに日本式建築にて押し進められてゐる。と稱して得意なり。夫より北山氏にHarmach-Hausの夕食を共にし。北山氏帰るに後には例の如く小林の種、荷物の検討を行ひ、夜中庭を歩く。

今日北山氏の子の遠征すべき雑品(電燈の湯沸し、茶葉一箱、酒、おスカー、酒、徳利、など等)一式を譲渡し、北山氏は大に喜びて持ち帰るなり。

四月十六日(王)

今日も引續いて清宮公事は休戦なり。予は午前五時半に起床し赴きたるに渡り乗り。飯田と郵船会社とやりておき復決着の部々切符を渡り、午後彼等より帰る。ついで北山氏と乗車、一行和歌へて都府に赴き昼食を認め、夫より北山氏の案内でNittenberg Platzの寓居に赴き、Le Cooの中央アパルタメント三件(五床、二浴、二台)及び客室及住家、一軒(二台)を買ひ、日本式に改修せしむるに合したるも、政府の厳禁する所ありと言ふ、此を得ず大使館に送り、大使館より手紙を送りて買ふ手続を取れり。

夫より予と飯田と大使館を訪問。大使館は、この政府の電報にて建築設計を相済し居り、予は大使に此日出発の挨拶をなし、大使館建築設計案、案が通過された上、事案にてよく外務省の吉子君と相談をなし、却して却る。夫よりFriedrich Straussと赴き最終の上意を要す。

その為北山氏とKDWの建築案内に赴き(大使館へ)

27
この間、Friedrich Straussの建築案内不足を述べ、掃お。然るに約五十分(三人、二部)位なりと云ふより、更に此の金を拂ひし時、金は七十五マルクありとて二十五マルクを返す。二部一人あり又五マルクの銀貨料とは如何なる高きか、その理由を問ふ、曰く、Schlafwagen、ワゴンリー(Wagon Leit)の車賃にて、五十分内地に及ばざる他の國々を行くものありの伊右利なり、自國の銀貨車あり、ワゴンリーの車を使用するが故に高し、一等座は和と其の二倍ありと。實に驚くべき次第あり。

加之候にあらざる思ふことは、案内所にてこの事實を詳知せり。女給の50 Mark位、おのアイマイお事を云ひ、復は「電報にて問ひ合はるる所」に云ふありと。おは實に室内の可憐な仕立の女あり、電報料々Markを便し、要するは五つたり不都合あり。日本の案内所は影の如き不しだるふこと無きと思へ。

予と飯田とはFriedrich Straussと、この建築案内を待たず清宮へ、予は席対一箇(78マルク)を要す、飯田はRoofie、ナナ年の五銀、構入の五箇(合計五マルク)を要し、これにて踏置のMarkを渡し切つた。帰途直次Spranger氏を訪ひしに不在なり。由て次の野へ一軒ビンに銅管を渡す此等し、此等此等の肉を食てて帰る。

夕食は巨大なる奥あり、實は莫大の量なり、一箸かつぎして食みたるが、他の客はこれより五五五五と食へり。客の人の習慣、味覺の異なることの甚しき事なり。食後務めて最終の整理を完了し、は、且法をきいて後日伯林最後の事を終るべく歸る。

四月二十六日(大)

天気快晴、波静、気温上る。

船正午頃 カンダ島に抵づく。相模と云ふ小島あり。島の嶺若し白雲を突き抜るあり。小島数個あるを以て南と出度す。海よりうららかなる所あり。

二三客の多くは和蘭人、西人、東人にて蘭領事や、ありビン方面へ行くもの。船主日本語を同か、食料は面白かりて教へたり。船主「お早か」から手始めに教へると船主は驚きし。来る廿九日 Port Said 着廿九日 Suez 着。その間 Cairo まで Pyramid 見物希望者は申さるべしとの事にて船主は之を趣きする故、船見物とやることにある。船主は見合せること、何國觀光客として大勢と行動を共にするものでは少く、自分の研究を基とす。不少船客(六六日半仕船百十何日)を以て船主を驚かせるものあり。

船は日没までカンダ島に泊りて東部東利度へ行く。大船数隻、Port Said 船主(小島等)ロンドン船主の使者を招き、興味あり。船主一刻、予は予備書を以て読書する。少く時、睡り就く。

四月二十七日(大)

天気快晴、波静、気温上る。船正午頃 カンダ島に抵づく。相模と云ふ小島あり。島の嶺若し白雲を突き抜るあり。小島数個あるを以て南と出度す。海よりうららかなる所あり。

二三客の多くは和蘭人、西人、東人にて蘭領事や、ありビン方面へ行くもの。船主日本語を同か、食料は面白かりて教へたり。船主「お早か」から手始めに教へると船主は驚きし。来る廿九日 Port Said 着廿九日 Suez 着。その間 Cairo まで Pyramid 見物希望者は申さるべしとの事にて船主は之を趣きする故、船見物とやることにある。船主は見合せること、何國觀光客として大勢と行動を共にするものでは少く、自分の研究を基とす。不少船客(六六日半仕船百十何日)を以て船主を驚かせるものあり。

77

温度表

	四月			五月		
	平均	最高	最低	平均	最高	最低
Port Said	65	74	60	70	77	65
Alexandria	64	75	58	69	77	63
Suez	-69	83	59	76	90	66

今更に中、船主の船あり。船主は日本の民衆(特に大塚、東京、海水浴、登山、茶の湯、生花、花火、田舎、船乗り等)の紹介。Port Said, Cairo, Pyramid 等の紹介。船主 Boxing の格闘技面白きを日本紹介は物足りず、強き大塚を "Manchester of Japan" と称したるものと云ふ。今頃人口三百万の大塚を Manchester 下町と云ふとあると正実の沙汰と云ふ。明治初年より日本に受けて使用と称して勝つたが、船主も云ふ。

四月二十七日(大)

天気快晴、波静、気温上る。船正午頃 カンダ島に抵づく。相模と云ふ小島あり。島の嶺若し白雲を突き抜るあり。小島数個あるを以て南と出度す。海よりうららかなる所あり。

午後19時の岸で英國船の人の運の英人観光客に多少面白く思いたう。船主は満足して見るべき星宿の星を指し示す。

甲板の上を散歩し、船の甲板の浮き橋を見て「波静か、白雲眠る、地中海」

ビービーロロロ。

夜食の後、船主より気持のよい小唄を聴く。明日船は終日 Port Said に停泊して船役の作業あり。故に見物人は明日船出の客あり。

午後五時頃、午後六時、日曜の漫画をみて少時
加減を一時、夕食の後休息して早寝をす。
船は午後七時、解纜してSuezに向ふ。

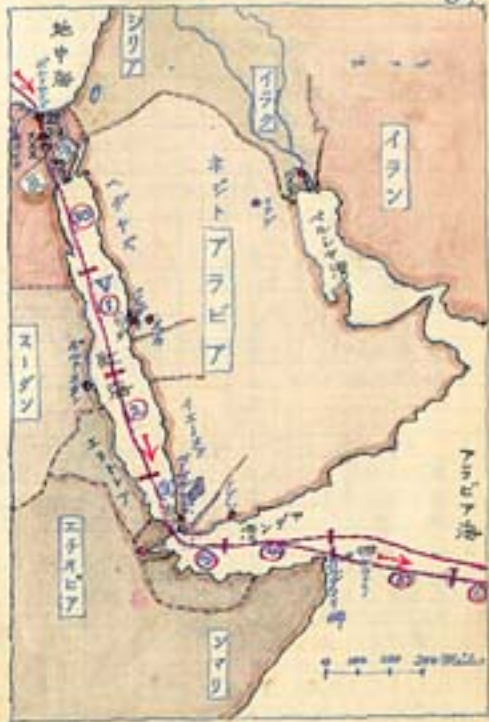
四月二十九日(日) 正午28

夜明けに見れば船は運河を航行し、右の両岸は
大抵沙漠なれど、諸所の樹木もあり人家もあり。
一天晴れ渡りて冷風はよく吹く。内スエズ運河を
航行する船多し。今日天候多きはSuezの港に居る
代りのロードを合と船客万端を眺め、予は記念にて
海面を物して船長の鑑む。

午後三時頃、船長と話したるに、長き日
運河内航行の四時、船はSuezに着き、埃及
艦隊の一打撃を帰る。船中は大急ぎで、
大急ぎで、埃及の艦隊、埃及の艦隊の
艦隊は、通貨を持ち帰りしは大急ぎ、
便知をもちこき運送とす。予は食料と貨幣と
を新船にていく、運送、投函し、船の面白し。
夕食は天候多きは船客多しとて、
して到着す。内陸より、
おまけを供に、日本船を乗る。食糧の
おまけを供に、日本船を乗る。食糧の

大統銀林檎の作りか

アトリアは人口二百万の小国、首都がアトリア、
地の豊饒な一帯、農業を主とす。大統銀と云つて、
地を富むたの林檎の作りか、或は、
て農業の関する何れか、式を述べた。式の中、
大統銀は林檎を、より取り出し、
認められ、よく見ると大統銀の、
大統銀、中に見え。アトリア、
大統銀、中に見え。アトリア、
大統銀、中に見え。アトリア、



厚固及びその清浄法、伏見の燃料として不炭を用
あるは由る損失等の富を別に面白からし。寝たれども
炎果甚しく顔紅及倒睡眼を得ず。頗る苦しむ。寝ま
て固けし船定ゆれを影の女にあらしとて。

五月二日 (四) 正午3時

天気晴朗、月、波起り、炎暑加はる。午著先時船中
温度計にて二十度(八十九度)あり、日中は九十度以上上
ることは自明なり。明日は波の激しき通過、するより
早急に北へ入るべしと決意、左の電燈を点す。

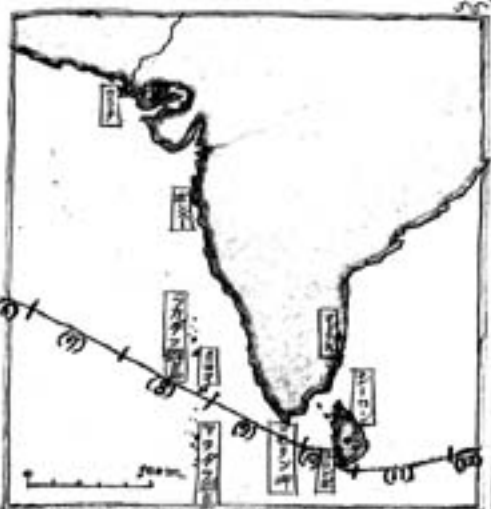
江戸の波の激しき、
江戸のアラビアの海、新々々、

夕食後映画の演あり、東京喜劇、博覧会、富て箱根観
光、日本春秋、西洋喜劇等ありて大々興を演ふ、よ
より Salon にて子供共來の探偵家と會見、二時を車
厘つて談笑を聊か非當に面白かりし。彼等(少年)は
始め彼は座敷の、内布を張つて南洋方面を探検し
殊に新ギニア一帯を巡り生死の言を會聞せるが
一軒して同教団の運動を確知するの必要を認め
進んでメカを入れたるものあり。

同教団は今世界の三宗教を代表し、結束して毎
年一國各地方の代表者聖地メカに集まり、勤行と共に
聖會場を行ふ。彼の日目的の重要會議を兼ねて強
固を知らんがあらう。彼は同教の教団を主としてアラブ
學に、滿洲國の同教団一名を伴ひ、中央アジアを踏破し、
埃及に渡り、Tora まで最長なる旅と勤行を経て

聖書の代り、

Riga 地方の人は夏は赤々と十字架地帯へ地層を動か
け、秋は暗く日光を浴す。一年の日光を身が貯ふ如
きあり。最冬は商店で燭光をかける。これは所
の表面の水が結着するを防ぐため。日中、夏は扇
風機を用ゐると固くて置き、秋の暑さを拂ふと勿
論おとし云ふ。要するに北地の人、日光と暑さを
乞ふが如きあり。



finda まで舟に走より陸路五十分、エヘムと云ふ
同教団をたてて元來就ては徒歩すべきを時々車に乗
りて、Oshakka まで来たが、その間六十分の間に
りて調査せる若し同教団をたてて最長なる旅と勤
行を経て、Oshakka に入りたる日本人七
名あり、その先頭段上り、彼は勿論同教団を代表
巧み開門の頭目と知り扱けたるに、決死覚
悟を以て進退せるより。試問は各種の儀式作法、
Korana の語の方等あり。

Oshakka は沙漠中の小都市にて人口三萬餘人、此地
は東大寺の如き中座の Kasha アラビヤ石にて築きたる
大寺院の建ちて居るに包む。幅は二十尺、高さ八尺

あり、その中は一室にて四本の足柱あり一隅に磔石あり、
其の趣如何なるに。(Museum は七本あり)

全食者數十萬人、數日即至、在農ふる動行あり、我々
會談せり。談話の主旨は二つあり、一はSyria
肉類(英が食料として其の軍兵に配給するもの)、二は食料
甘藷等食料を對して一大困難を立てんとするところ、そ
の第一一種肉類の支拂の方法なり。

茲に注目すべきは伊和利と英國との交渉問題なり、伊和利が茲にエチオピアに取つた事實はエチオピアの國境線の仕事あり國王伊曼業を奉じて國境線を圧迫する伊和利は國境を覆つて國王を遣つたり、或る國使は伊和利の好意を有し Yemmu、伊を去る Yemmu、はアラビアに於ける唯一の強土地にて人口殆ど皆西人なり、北方ヘヂマズとネグトは其の勢力を今 **Gaud** なるもの居居する中、廣大なる土地は強て、**Gaud** 及び人口の西方に過ぎず、是は **Gaud** の國使國王即ち Khadija の雅人とし、伊は之を承認する代り **Succ**、運河を軍隊を數回せんとして提議し、成す事なりと認むる。然るときは紅海の利権は伊和利の手にてあり。

同、此の如くして、時人休想、人々顔を見ず、學費
 面を悲じ、孤獨を思ふ、偶々として、皆、全く死に
 あり。

Snake 島の Torii は Mukden 市の奉天警察に人々を監視
した時に、近づく健康診断を強行す。曾て二十五万人の奉
天省で深刻の暑さ二十二万人死に生きている万のふりし
事ありといふ。

又その新羅方面の支配人として馬、朱、第、王等の
 如くそのは強とすべて同数使と見て可なり。漢國、
 は二百萬の同数使あり、その他、他方、又同、
 此の同数使は二十萬と知す。

此の地は今も食人蛇あり、且つ極めて悪徳の地なりありて、血を排して流るゝなり。是處に蛇の毒あり。

五月三日 (3) 257

天気が晴れ、吹風をよくと吹きて暑氣を獲ハス。海上
時々の物々花々散らすは白鷺の群あり。年暮一
時、紅毛船 Bal-ah-manded を過ぐ、アヒヤ島の陸上
地は、沙漠の如く多量、鹽台とあると察す我旅
客との太陽の影が西方に向ふ所人々とも、今
より遠く、遙遠の人道有能と見當つた。Bridgeの
設置に對して右の般が東南に向へるを知る。右橋
の遠くは音相大なる。さうかに思ひながらの距離や
遠いて音相便ならず。試みハナカトを越え、山崎
の嶺まで、ハナカトを越ゆるものなり。(喜梅氏)
此處、南の港は Port Sudan と稱しありとぞ。

平機船は東へ折れて Aden 灣を走らば、
山の島々次第を隔てて目につく。一、二島は
草木の茂る所を見えぬ。その記録は、
「代氏姓と文化」と題する冊子を以て、
時々にて面白きものは、と著しく快く一覽するに
す。彼は島民龍長氏の消息を知り「彼は人殺者として
骨ごとく問へたが、龍長は来りしが、既に婦人等」と
云ひ居りたり。

[illegible]

予は更より昨日の鈴木氏と同数のブドウを喰ひ、
又ハツタを喰ひて甚く腹を飽みし、與りて
睡臥一晝夜を寢る。

五月四日(火) 午後30'

天気快晴 風速軽弱、船は静かに正東に向て走る。海鳥の群船の周りを回遊する奇観あり。

午前濃霧を物して船長は驚る。船客若干之を見たりも深く興味を感ぜざるものあり。

午後一乗船士来り、予は日本建築の関する質問に答へて、予欣然之を喜ぶ。又より多くは睡眠を貪りて目を醒す。夕食の卓上、コロンビアの風物、物産、産物、生活状態等々の話中々面白し。

予は帰宅後仕事に關してソノソノ計画を立て、その準備に着手するの必要を感じ、著意をこたせり。一てしきり冷風が浴して寝たれど

五月五日(水)

天気快晴、濃霧あり、航路は複雑をきじてソコト島の南を通過す。ソコトは英領に大き我が伊豆半島位、土民は強弱して人肉を喰ふといふ、酋長は100人、と称し居ると云(島の人曰く予は五六万あるべしと云ふ)今日は腹の減りて船は給少量、食は少量の食を取りて安んず。

今朝船の船主(ワタシ)がアトより帰航の船中にて東京カニエースと接し、船長はあつた場合の處置を問ふ。

船長曰く

船中の人は英領の外東の運送、一般は二十四時間経過後、メソンの食を入れ、彼の種を入れ、食の中の中流、別の形式あるが船長又は船客が選別を擇ぶ。船中の兵室あり。但し最前兵を貯ふる設備あり、以て防衛を施す。暑中へ時々くが、最前兵の場所、船は東京の運送を要する。アトは、注目下は東京、島は船は飛行機にて運送する、アトの理由にて身が、家財と兵隊の食化の島の風物より解及は難いからと想像を述べ



Colo-ko-Aruachiburu
13° 45' N, 151° 15' E
Colo-ko-Aruachiburu
13° 45' N, 151° 15' E

夕食後米団聚の月夜あり、餅の面白かつ。終て船本より同様の話の聞き、又も、このメソンの軍兵を買ふ、これ又かは容易に得られぬと云ふ。

一乗船士は山形市の事を、村に知りていふ奇談あり。

清夜便寝す。

五月六日(木)

天気快晴、海上平靜あり。今日は濃霧の色、波頭は年より午後より、一矢十九枚を仕上たり、残りは明日の獲とす。

11時、世界と日本を接

五月各地温度表

地名	平均	最高	最低
コロコ木	27.8	30.6	24.9
コロコ木	27.7	31.6	23.8
香港	25.0	27.2	22.8
上海	18.3	25.0	15.0
神戶	17.6	22.6	13.3

みて腹は面白し、若林平の著とあり居る中、船本側の著あり。

夕食後、例の如く食卓上の話の中々興味多し、やがて寝たれど。入試の電報あり、目く

江戸は非に、島船のケトカキ。

島の船は、法則や難い。

入試の電報、難い、難い。

「動機」の語ありて面白し。(香港新聞)
 まより日本の新聞と日本時事News、日本の
 四季(春の部)、漫画(Fine Art)、喜劇(Fun
 Bod to Wares)等ありて可なり面白し。

今日入試より入選あり、曰く:

「朝の朝会、いざ無事にて法パンをたべ、毛皮を
 三行の文化人なる、入選」

これ等が主の我伯林中の日課を言ひしものか、
 沐浴汗を流れて寝るべく。

気温我が下り気味とかいふあるは、朝の朝会より
 今夕のカムラン湾の東方を通過せる光あるを望
 知れへす。

五月十九日(休)

天気晴朗、風波なし、午前中は殆ど寝床にあり、午
 午食後は読み書きやの休息にて時を過ごす。

社長の次の電報に於て:

「上陸船は神戶に横濱へ、そこの船会に
 来れ、返朝よ、忠実」

夕方には、浪子渡船船行機が次々から東京港官
 方の建物の傍から、横濱として取りとめなし、ま
 よりSalonにて船長と船員二番をさし、予は半分に
 連勝す。船長より予の関心に附き、予の候補に見る
 を可い。まより船長と一しきり時事を交へ、club
 にて談話し、船長と予と終り脱り、ヒトラーの
 人物、政治の議論を花咲きて我々の及ばぬ
 就く。

五月二十日(◎)

天気晴朗、風波なし、午前中は殆ど寝床にあり、午
 後映画を映し、いそぎの中、筆を執りて意の儘に書く。今
 日より煙火管制の命あり、夕刻より船内その準備を
 開始。夕刻、ニュースを除く船内を報し、夕食の卓

上眺ふ。小野を中夜視察を来して、月を人の一掌
 船は月桂の一歩を握り解いて航向す。

今日より日本(台湾)の放送が聞かざる光ありて、
 船客Salonに集り、船員より船取寄を接収す、
 船費甚しけれと申す。船取寄の報、その他のNews
 隊は一固大の興がる。

連日管制の爲め、船内にも暗くして煩る煩
 たる上、船費甚しけれと申す。船取寄の報、その他のNews
 隊は一固大の興がる。

社長の次の電報に於て:

「神戶に横濱へ、そこの船会に
 来れ、返朝よ、忠実」

船は就かたが熱し熱さの甚し眠れず、しばし
 起き出し、Newsを冷風を納め、殆ど眠れず
 夜を明かす。

五月二十一日(◎)

船は香港に入る。横濱のShimizuにて降る気
 候、降す。七時官憲Passportを調査に来る。
 船客の船客の多くは市街見物へと出かけたが、
 予は香港と二回(一回は廣東側、一回は
 神戶へは、神戶)見物にそのツマナさを知り、
 船に上りて遊したる者、昔と少しの変わり居るが
 船内をめぐり、船内を市内風景を望み、
 予は昨夜の睡眠不足を補ふべく早速、寝床に就き
 予は正午頃まで眠る。飯後、予より船内を
 眺め、美しと感ずる。

予は今日まで、パンビツと漫画を物にぶとして
 午後を過ごす。社長の電報に於て:

「神戶に横濱へ、そこの船会に
 来れ、返朝よ、忠実」

予は今日まで、パンビツと漫画を物にぶとして
 午後を過ごす。社長の電報に於て:

「神戶に横濱へ、そこの船会に
 来れ、返朝よ、忠実」

夕刻の卓上は漫画にて面白かり、食後Salonにて

運搬機に於ては、完全無故障で一見戦場の跡には見えず。演習方は倉庫裏立ち並で静寂あるが、平木の趣あり。

朝食後見物に出く。この時多数の支那人船が入り、金、両換を要請す。俄に同へは英貨一ポンドを日本貨二十円五十銭と換ふといふ。今まで何となく十七円換を換へたるが、上海でこの相場は、故あるや不審あるは、竟に國幣に有利なるは、持ち合セのボク、貨金全部日本貨と換へて大に儲けた。

見物因は英婦人一人、外金部日本人新合十人、一、二の乗合有動きて出く。運転手は支那人、説明者は英人あり。船乗者も英人あり。日本人の程度は、日本人の現時が望みしが未だある。船乗者は、車は走つた、西へ走る。南京路は主要道路にて、流石の賑はひ、層層觀望の觀あり。大戦後復々市街には思へる。車にて北へ向く道通り出れば、一面、古戦場の生々しき凄惨ある光景を見る。

丁度早急の大砲二發の大砲大砲の跡の如く、家といふ家は破壊の爲に打ち倒され、或は折られ、或は焼かれ、或は破壊の跡は、事既に尽すべからず。近野面、古戦場の跡に出で、南北の戦道、戦の跡、最も凄惨を極む。こゝは京滬鐵路管理局の線打ちたる八層建の大砲あり、數々破壊された。子の生る入口の洞と

と稱され、一行は車を下りてこの遺跡の内外を視察す。その中に、直交三層乃至七層の穴あるは、皇軍の巨砲の跡にて、その穴の内部が震か驚きたりといふ。内部は八層の穴といふ。遺跡は難具や、泥死骸骨にして足跡を知らず。

戦跡保存

土師師政子儀

昭和十二年十月七日

者て更に戦跡を視察し、肥田したるが、今日は長距離の外に出る許可証あるため、引き返すことし、我が海軍陸戦隊本部を視察、各軍部関係の電管所を觀望し、上海神社を参拜し、その境内は、兵士等の多人相撲、數番を見物して、正午船に帰る。

今日戦跡に入るや、日本の善美なる可きもの、軍を呼び留めては「日本人の心あるや、外人は底のすや」と問ふ。若し外人ありと言へば入場を許さざるあり。

戦跡を生々しき觀望の機は、ある。見れば、肉は生残り頗る、惨憺あり、何故に始末と云ふと怪する。

午餐後、飯田より、有志の一行二名より市政廳、及び大塚鎮を見せられんこと。同行されずやと言ふ許可証を得たりやと返問され、得たる言ありといふ。即ち船を下り一行と共車を得て、東へ走る。事應成るが、かしこに、更に同に賛す、許可証は得られずといふ。

因て子は船に引き返れし。飯田に「直ちに市街を見せし地圖、併に、その他の點を要す。日本人の店まで買ふが安全あり」と教へて自由行動を取らしめたり。子は船に在りて休息の機、讀き書き著して日を暮す。夕食の準備は、安樂あり。小野寺氏も今日は毎日の正装にて、軍部の迎へを致して、朋より出がて帰る。その他外出、外泊の人もあり。

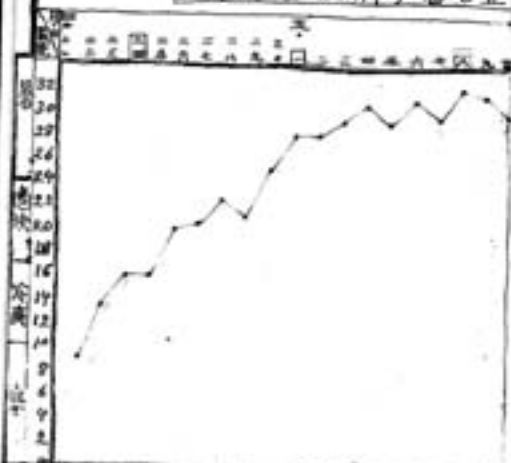
夕食後、ラジオを聞き、終つて雑事を處理して寝る。

五月二十五日

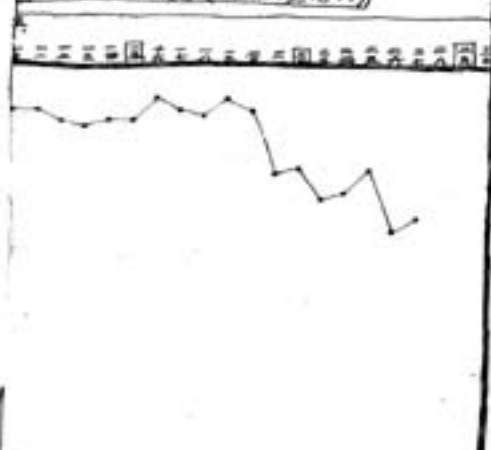
午前十時、竹内氏及び多田夫人二人、自自動車を偲ひ、昨日見物したる重要個所を歴訪す。今日竹内氏、陸軍部の人より許可証を得たれば、何處まで自由に出入することを得たり。

先づ第一、市政廳を向ふ。一、二組の兵士、五野の土版、新市江蘇より路線を通るが、完全な觀望され、戦跡の命名は今や日本に由て、飯田より、何處

日正午

[illegible]

年日氣溫表 (於秋見九月)

[illegible]



伏見丸 第1次復健定期表

(着)	(漢名)	(發)
	俞 凱	四月十五日
四月十九日	江和成	。十九日
。廿二日	馬耳塞	。廿二日
。廿四日	十 木	。廿四日
。廿八日	陳西上	。廿八日
。廿九日	蘇 士	。廿九日
五月 十日	長 倫 安	五月 十日
。十五日	新嘉坡	。十六日
。廿一日	查 港	。廿一日
。廿四日	上 海	。廿五日
。廿八日	神 戶	。廿九日
。廿九日	大 阪	。三十日
。廿一日	橫 濱	

[illegible]

経費

収入

2000	円	日経文化協会より支給
16000	円	外務省より支給
18000	円	

支出概算

2000	円	伊豆半島船賃料(船品)
500	円	清夜材料調査費
2800	円	伊豆半島車走伯林馬車費
5000	円	伯林滞在生活費
1800	円	伊豆各地旅費
1400	円	交際費及謝礼費
3000	円	伯林東京旅費(伊豆半島)
1500	円	設備費(諸費物)
18000	円	

外務省作製豫算(甲)

1.	6000	円	日経文化協会より支給、内得
			3000 伊豆半島
			3000 伯林
2.	16000	円	外務省補助
3.	7080.24	円	自辦、内訳
			5080.24 伊豆半島
			2000.00 伯林
合計	29080.24	円	

支出清算

飯田(秋田半島)船賃料	900	円
仕度料	1750	円
贈品(生機料680円、内)	120	円
清夜資料	450	円
往來船費(伊豆半島)	2300	円
往來船費(伊豆半島)	3500	円
往來船費(小島)	800	円
諸費物(伊豆半島、伯林、伊豆半島)	2200	円
伊豆半島旅費	1200	円
謝儀及交際費	1100	円
伯林-伊豆半島旅費	680	円
伊豆半島旅費	2600	円
租費(新館全)	600	円
合計	18000	円

同(甲)の内容

伊豆分	1.	3262.66	円	日経往來船賃料
	2.	2777.46	円	宿泊料
	3.	2000.00	円	独乙国内旅費
	4.	8000.00	円	欧州滞在費
飯田分	1.	3262.66	円	日経往來船賃料
	2.	2777.46	円	宿泊料
	3.	2000.00	円	独乙国内旅費
	4.	5000.00	円	欧州滞在費
合計		29080.24	円	

見積 Voranschlag.

注文書 Auftrag ~~Bestell~~ -zettel

委託 = Auftrag

単価 = Einheitspreis

便宜マケル = Heruntergehen, ablassen.
(im Preise)

割引 = Rabatt, Disconto

期間 = Frist, Zeit, Zeitdauer

工事 = Bauarbeit

竣功 = Vollendung.

施工 = Ausführung

面倒 = beschwerlich, Mühsam
um es schnellständigen, kostet
es viel Mühe.

... 2 宜しく 中 寄 下 さい

Bringen Sie ihm tausend Grüße von mir

お母さんへ = Grüssen Sie Ihre Frau Gemahl.

一路まわり所々 = Glückliche Reise!

此處の中日のあいさつは非常に多い

Es freut mich sehr, Sie hier zu sehen

いそがしい = mit Arbeit überladen

= beschäftigt mit...

迷惑 = Belästigung.

お世帯でとて 非常に忙しい

Entschuldigen Sie, dass ich Ihnen mit
einer Frage belästige.

直理 = Frohlockend

荷送費 Parkkosten

運賃 Transportkosten

報酬 Belohnung

取りはらひ Zertrennen

組立て Zusammensetzen

あいまい Zeichenmaske

仕様 Specification

見本 schätzung

工費 Kosten

手間賃 Arbeitslohn

保管費 Metallvergütung

設計 Entwurf

監督 Beaufsichtigung

相談地 Besprechen

請負人 Kontrakter,

契約 Vertrag

建具 schreiner, Tischler (Tischler)

装飾 Ausstattung (eines Zimmers)

地盤 Fundament

天井 Decke

床 Fußboden, 床板, diele

小屋根 Dachhinder,

指物師 Tischler

家具屋 schreiner

大工 Zimmermann

石工 Maurer, Steinbauer

瓦工 Kubi, Arbeiter, Tagelöhner

土工 Erdarbeiter

左官 Maurer

釘屋 Metallarbeiter

上屋 Schinddach

漆師 Feinholzer, Austreischer

Singaporeの植
園内の羊齒科植
物の一例



Ceylon の Colombo
子持ける 佛寺内の菩提
樹の葉二枚



日本一獨り

- ①昔は日本は西洋の英蘭ありと誇りて誇りたるは、今より見れば笑止千万あり。
- ②今は吾等は「西洋の日本たらんとす」と云はるゝに至りたるは、今昔の感々憾へた。
- ③西洋諸國の現状は、英は既往の勢力を維持し、法は世界を重きあり(英中露)も、露は現に重き。仏は今や振はざるも、法は「壽命を保つて」是は死すべしといふ。
- ④伊は露露の途上にあつて元氣旺盛なる國力の二倍なり。ソ聯は露露の國の如きも、内政治まりずして外は露露を述べ難し。
- ⑤この國に在りては、無規尋直し新國を創建せんといふ。手始めの二塊を併合し、手始めのウラシヤを越え、世界大戦を失ひ、今更は恢復し、世界大霸を稱せんといふ。
- ⑥吾等は旧文化を一掃して新文化を建てんとす。即ち新國を建てんとす。(此處より)
- ⑦この日本が明治維新以來、旧日本國を新日本國を造つたるを以てたゞとせざる。
- ⑧吾等は日本が如何にして日本が新日本國を大成し得たかを研究し、之を模倣せんとするの意あり。
- ⑨これ等乙が先づ日本を知んことと意ある、真意あり。
- ⑩「吾等知らん」とする点は、日本國の優越なる條條は何の由て生じたるか。
- ⑪日本國の、諸法如何、その民衆の力、理を科會する力如何、如何。
- ⑫日本は國小、國力をあらず、國民の強さ

制するは似たるを、疑てして違ふが、何故あるや。

⑬日本文化の精華、その強さの動機及び歴史は如何、等々...

- ⑭人は説く、日本民族は血の純潔であり、其の民族の血を純潔に保つてゐる。其の故は、*Germanen* は何れも混血なり。*Inde* の血を混血するとは純潔とはあらず。又純潔とするては、其の血を養育するの力を失はる。
- ⑮「吾等」は日本の國情は日本の歴史なり、即ち其の國に於て模倣し得べからず。ヒトラーを國體の根に上りて日本の國體を造るべきと云ふは、其の笑ふべき處あり。
- ⑯吾等には日本民族の歴史を研究すること、純潔、血、生活様式、信仰、社会制度、歴史、其の綜合結果の由るが故に、我々之を模倣せんとする可なり。
- ⑰「吾等」は上記の長所的事實を、一箇一箇を模倣す。
- ⑱吾等「吾等」は西洋の日本たらんとすることとは、本で説く。吾等日本を學ぶ時、其の長所を學ぶこととある。
- ⑲「吾等」が會て英米等を學ぶこととあるが、只は皮相の模倣のことと云ふ。一歩進み、其の長所は其の民族の歴史、日本の歴史と云ふ点ありて、英米の比は斯くは、ずやよく日本の長所を取ら得べし、この等々あり。
- ⑳「吾等」は正しき事へ思ふ、併し之の由て、吾等が成功すると思へば、寧ろ失敗を知ることとある。
- ㉑由來一國の長所は他國に由り模倣すべき

- ① 一柱の長は由て横取さるべきものは真の長を以てずして只た表面的現象の正。
- ② 日本が英米の長を横取すると称して何物をも横取し得ざうしが如く、西洋が亦た日本の長を横取せんとして何物をも横取し得ざらん。
- ③ 一國の長短はその國に取ての長短にて他國に取ての長短は就ち。
- ④ 鶴の脚の短きは鶴にして適し、鶴の脚の長きは鶴にして宜し。
- ⑤ 若し漫に幅脚を縮短し、鶴脚を短縮せざれば可。
- ⑥ 近松子の戯曲の一句は天下の真理を道破して餘蘊なし可。

⑦ 北歐文化の根柢

- ① 北歐とは主として German 種を指す事の中を以て對象とす。
- ② German の起源は詳ならず最近の研究ハスキャンデナヴィアを起原として東プロセンに來り漸次西進するといふ。新千年為巴比文化を有した陽崇輝の學如家説を有せうといふ。その遺跡を知る是果せられて各指點領は在り。

① 宗教人と宗教

- ① 宗教人のキリスト教徒なるの固執あり。
- ② 宗教人の教の真理を知らず、イザン、Godの如く
此の世の對照として崇拜し之を神と信ぜり、
此の世の安住と信ずる宗教と思ふ。
- ③ 宗教人の只機械的なる之を信ずるものあり。
自己の慾望の爲に之を信ずるものあり。
- ④ 宗教人は大自然を造り、人間は之を草木として尊重
すべしと暗示せり。彼等は大自然の神として崇拜
せざるものあり。故て之を神と信ぜり、あり。
何處に宗教心ありんや。
- ⑤ 宗教人は現物主義者あり。自己本位者あり。
- ⑥ 宗教人は自然の美を解らず。
- ⑦ 例之ば、彼等は山を敬んで之を神と信ぜり
と言ふ。宗教人は大海を敬ひて之を神と信ぜり
と言ふ。
- ⑧ 例之ば、彼等は一点の距離の心よく遠くを敬ひて之を神と信ぜり
と言ふ。
- ⑨ 例之ば、彼等は人倫の道徳を信ぜり。
何處に宗教心ありんや。
- ⑩ 宗教人は、(若し彼が實在の人ありんば) 世人の
善徳を擁護せんが爲に教を説きし。世人の之を
自己本位に由りて是れを信ぜりと言ふものあり。
- ⑪ 宗教人は宗教心をもち、キリスト教を信ぜり
は、便宜上之を神と信ぜりとして費用に展るものあり。
- ⑫ 結局宗教の到底要るべからざる無宗教の實人
なり。

②

② 宗教人は、(若し彼が實在の人ありんば) 世人の善徳を擁護せんが爲に教を説きし。世人の之を自己本位に由りて是れを信ぜりと言ふものあり。

野蠻と文明

文明とは何ぞと問ふに
 文明とは何ぞと問ふに
 文明とは何ぞと問ふに

① 野蠻と文明

野蠻と文明の差は精神修養の欠如と充足とにある。
 人倫の道、道徳、礼儀、克己、和義等の修養偏りたるが
 文明たる足らざるが野蠻なる。

② 日本と欧米の比較

五々心理を異にし思慮を異にし礼俗習慣を異にするが故に比較困難なり。日本が最も善きは神皇は
 有るなり。欧米が正しければ日本は即ちなり。

③ 日本正しとする可否は決定困難なり。吾人の本心

正しとして居る時欧米は野蠻と考へざるを得ぬ。

④ 差別は無数、十箇条を掲げん (勿論大体的)

ア一極端なる道徳主義

イ一極端なる利己主義

ロ一極端なる利己主義

ハ一極端なる利己主義

ニ一極端なる利己主義

ホ一極端なる利己主義

ヘ一極端なる利己主義

ト一極端なる利己主義

チ一極端なる利己主義

リ一極端なる利己主義

⑤ 欧米の富は不正で富なり。文明と没交渉

⑥ 欧米の野蠻文化は文明と没交渉

⑦ 欧米一富一〇

⑧ 今東洋世界の富の七割以上を有する文明と没交渉

⑨ 今東洋世界の富の七割以上を有する文明と没交渉

⑩ 今東洋世界の富の七割以上を有する文明と没交渉

⑪ 今東洋世界の富の七割以上を有する文明と没交渉

⑫ 今東洋世界の富の七割以上を有する文明と没交渉

「橋乙と日本」

- ① 序言 ① 予「予乙行の使命」
 ② 予乙の目的
 ③ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ④ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ② 予乙の日本観
 ③ 日本観の時代
 ④ 日本観の時代
 ⑤ 日本観の時代
 ⑥ 予乙の日本研究の状況と日本認識の程度
 ③ 日本研究の目的
 ④ 予乙の目的
 ⑤ 予乙の目的
 ⑥ 予乙の目的
 ⑦ 予乙の目的
 ⑧ 予乙の目的
 ⑨ 予乙の目的
 ⑩ 予乙の目的
 ⑪ 予乙の目的
 ⑫ 予乙の目的
 ⑬ 予乙の目的
 ⑭ 予乙の目的
 ⑮ 予乙の目的
 ⑯ 予乙の目的
 ⑰ 予乙の目的
 ⑱ 予乙の目的
 ⑲ 予乙の目的
 ⑳ 予乙の目的
 ㉑ 予乙の目的
 ㉒ 予乙の目的
 ㉓ 予乙の目的
 ㉔ 予乙の目的
 ㉕ 予乙の目的
 ㉖ 予乙の目的
 ㉗ 予乙の目的
 ㉘ 予乙の目的
 ㉙ 予乙の目的
 ㉚ 予乙の目的
 ㉛ 予乙の目的
 ㉜ 予乙の目的
 ㉝ 予乙の目的
 ㉞ 予乙の目的
 ㉟ 予乙の目的
 ㊱ 予乙の目的
 ㊲ 予乙の目的
 ㊳ 予乙の目的
 ㊴ 予乙の目的
 ㊵ 予乙の目的
 ㊶ 予乙の目的
 ㊷ 予乙の目的
 ㊸ 予乙の目的
 ㊹ 予乙の目的
 ㊺ 予乙の目的
 ㊻ 予乙の目的
 ㊼ 予乙の目的
 ㊽ 予乙の目的
 ㊾ 予乙の目的
 ㊿ 予乙の目的

① 建築

- ② 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ③ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ④ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ⑤ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ⑥ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ⑦ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ⑧ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ⑨ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ⑩ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ⑪ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ⑫ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ⑬ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ⑭ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ⑮ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ⑯ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ⑰ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ⑱ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ⑲ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ⑳ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ㉑ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ㉒ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ㉓ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ㉔ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ㉕ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ㉖ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ㉗ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ㉘ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ㉙ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ㉚ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ㉛ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ㉜ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ㉝ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ㉞ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ㉟ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ㊱ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ㊲ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ㊳ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ㊴ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ㊵ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ㊶ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ㊷ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ㊸ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ㊹ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ㊺ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ㊻ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ㊼ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ㊽ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)
 ㊾ 予乙の印象 (Spranger 氏と言ふ)
 ㊿ 予乙の印象 (先づ橋乙の印象は、足元は暗い)

忠節 礼儀 武勇 信義 質素



渡獨記

下
自昭和十三年三月廿六日
至昭和十二年五月廿日